

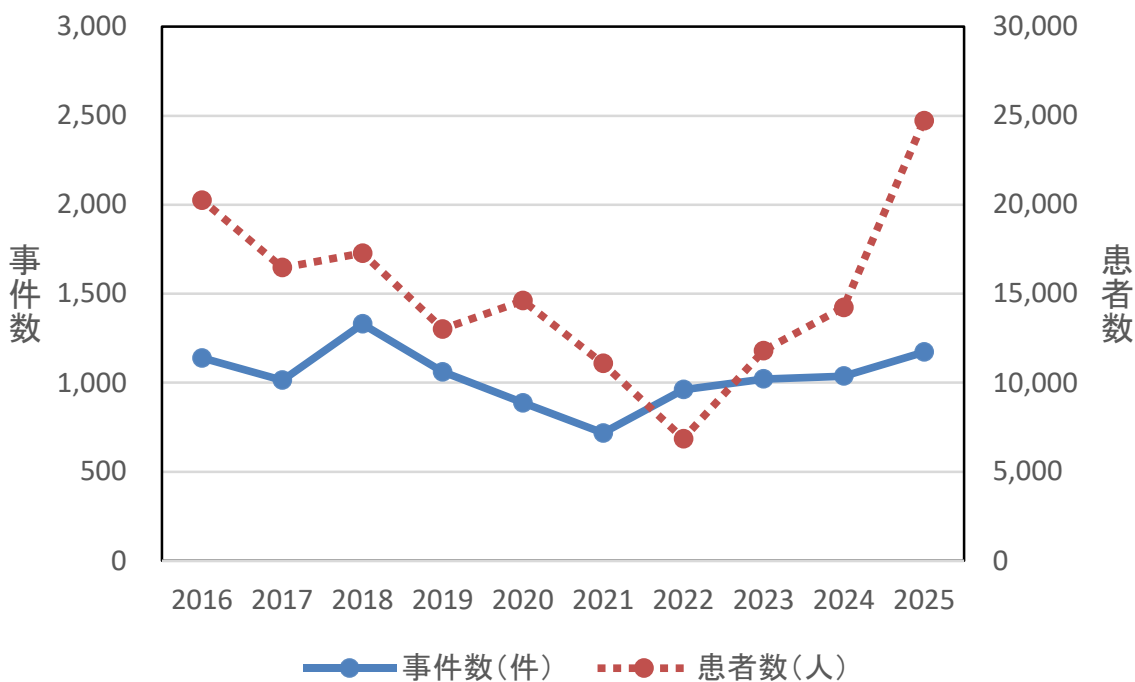


1. 全国食中毒の事件数と患者数の推移

2016年～2025年の全国における食中毒の発生状況(報告数)をみますと、2025年は2024年に比べて事件数、患者数とも増加しました。2025年は、ノロウイルスによる事件数が大幅に増加し、事件数、患者数とももっとも多くなりました。

2025年の死者数2名は、腸炎ビブリオ、イヌサフランを原因とするものでした。

最近10年間の全国の食中毒の事件数と患者数の推移



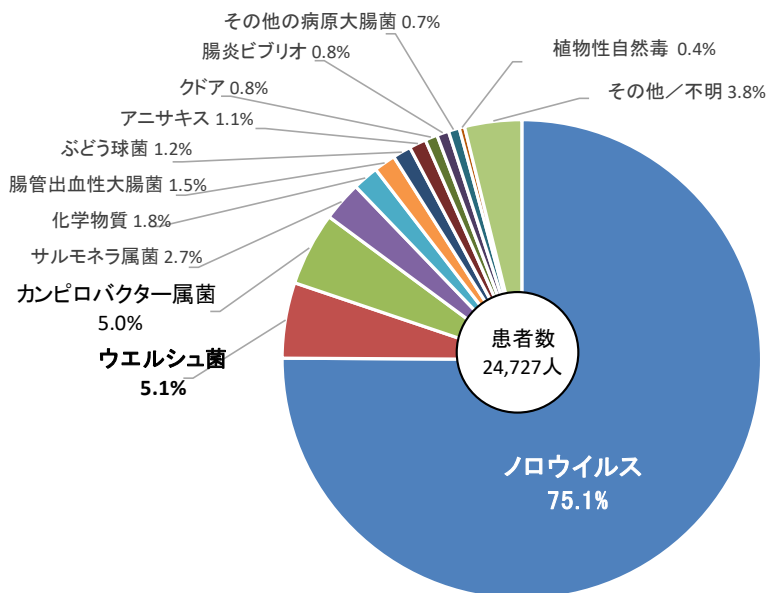
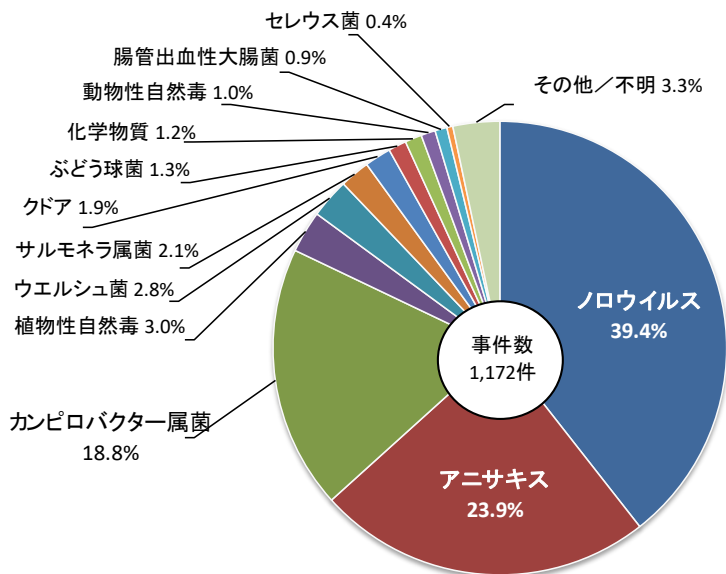
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
事件数(件)	1,139	1,014	1,330	1,061	887	717	962	1,021	1,037	1,172
患者数(人)	20,252	16,464	17,282	13,018	14,613	11,080	6,856	11,803	14,229	24,727
死者数(人)	14	3	3	3	3	2	5	4	3	2



2. 病因物質別の食中毒発生状況(2025年)

2025年の病因物質別の食中毒発生状況をみると、事件数は、ノロウイルス(462件、39.46%)で最も多く、アニサキス(280件、23.9%)、カンピロバクター属菌(220件、18.8%)で全体の82.1%を占めています。

2025年の患者数は、ノロウイルス(18,566人、75.1%)ともっとも多く、2024年に比べて倍増しました。ウェルシュ菌(1,260人、5.1%)、カンピロバクター属菌(1,226人、5.0%)で全体の85.2%を占めています。



3. 最近3年間の病因物質別の食中毒発生件数の推移

病因物質別食中毒発生件数(事件数)

病因物質	2023年		2024年		2025年		3年合計
	事件数	構成比	事件数	構成比	事件数	構成比	
アニサキス	432	41.7%	330	31.8%	280	23.9%	1,042
ノロウイルス	163	15.7%	276	26.6%	462	39.4%	901
カンピロバクター属菌	211	20.3%	208	20.1%	220	18.8%	639
植物性自然毒	44	4.2%	41	4.0%	35	3.0%	120
ウェルシュ菌	28	2.7%	43	4.1%	33	2.8%	104
サルモネラ属菌	25	2.4%	21	2.0%	25	2.1%	71
クドア	22	2.1%	23	2.2%	22	1.9%	67
ブドウ球菌	20	1.9%	21	2.0%	15	1.3%	56
腸管出血性大腸菌(VT産生)	19	1.8%	16	1.5%	10	0.9%	45
動物性自然毒	13	1.3%	16	1.5%	12	1.0%	41
化学物質	8	0.8%	10	1.0%	14	1.2%	32
その他の病原大腸菌	3	0.3%	5	0.5%	4	0.3%	12
セレウス菌	2	0.2%	2	0.2%	5	0.4%	9
腸炎ビブリオ	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	5
その他/不明	29	2.8%	24	2.3%	33	2.8%	86
計	1,021	98.5%	1037	100.0%	1172	100.0%	3,230

病因物質別食中毒発生件数(患者数)

病因物質	2023年		2024年		2025年		3年合計
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比	
ノロウイルス	5,502	38.7%	8,656	60.8%	18,566	75.1%	32,724
カンピロバクター属菌	2,089	14.7%	1,199	8.4%	1,226	5.0%	4,514
ウェルシュ菌	1,097	7.7%	1,889	13.3%	1,260	5.1%	4,246
サルモネラ属菌	655	4.6%	384	2.7%	662	2.7%	1,701
ブドウ球菌	258	1.8%	610	4.3%	305	1.2%	1,173
アニサキス	441	3.1%	337	2.4%	283	1.1%	1,061
腸管出血性大腸菌(VT産生)	265	1.9%	124	0.9%	362	1.5%	751
クドア	246	1.7%	245	1.7%	207	0.8%	698
化学物質	93	0.7%	137	1.0%	433	1.8%	663
その他の病原大腸菌	116	0.8%	105	0.7%	184	0.7%	405
植物性自然毒	114	0.8%	93	0.7%	90	0.4%	297
腸炎ビブリオ	9	0.1%	1	0.0%	199	0.8%	209
セレウス菌	11	0.1%	40	0.3%	27	0.1%	78
動物性自然毒	15	0.1%	18	0.1%	21	0.1%	54
その他/不明	892	6.3%	391	2.7%	902	3.6%	2,185
計	11,803	83.0%	14,229	100.0%	24,727	100.0%	50,759

4. 原因施設別の食中毒発生件数(2025年)

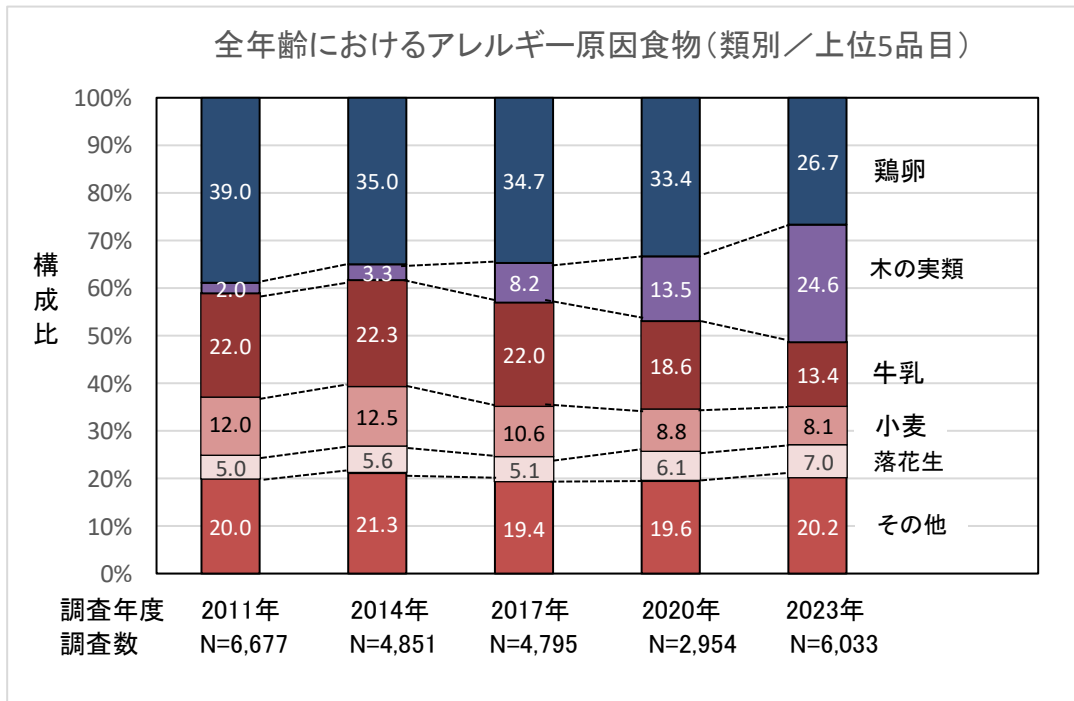
原因施設	事件数	構成割合	原因施設 が判明した ものの構成 割合	患者数	構成割合	原因施設 が判明した ものの構成 割合	一事件あ たりの患 者数	死者数
飲食店	658	66.8%	66.8%	11,724	48.8%	48.8%	17.8	-
家庭	85	8.6%	8.6%	132	0.5%	0.5%	1.6	1
事業場	51	5.2%	5.2%	1,315	5.5%	5.5%	25.8	-
旅館	50	5.1%	5.1%	1,922	8.0%	8.0%	38.4	-
販売店	45	4.6%	4.6%	102	0.4%	0.4%	2.3	-
仕出屋	44	4.5%	4.5%	6,146	25.6%	25.6%	139.7	1
製造所	19	1.9%	1.9%	1,407	5.9%	5.9%	74.1	-
学校	14	1.4%	1.4%	460	1.9%	1.9%	32.9	-
病院	3	0.3%	0.3%	214	0.9%	0.9%	71.3	-
その他	16	1.6%	1.6%	602	2.5%	2.5%	37.6	-
計	985	100.0%	100.0%	24,024	100.0%	100.0%	24.4	2

※本資料は厚生労働省ホームページに掲載されている2026年4月10日時点の食中毒統計資料のデータを編集したものです。元となるデータは次のURLをご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html

5. 食物アレルギーに関する調査報告

令和6年度の「食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書(消費者庁)」では、即時型食物アレルギーの原因食物は鶏卵26.7%、木の実類24.6%、牛乳13.4%で、木の実類を原因とする報告例が大幅に増加しました。



木の実類の内訳は、クルミ61.7%、カシューナッツ18.8%、マカダミアナッツ4.6%、ピスタチオ3.4%、アーモンド3.1%でした。

木の実類内訳

種類	n	全体における%
クルミ	916	61.7%
カシューナッツ	279	18.8%
マカダミアナッツ	69	4.6%
ピスタチオ	50	3.4%
アーモンド	46	3.1%
ペカンナッツ	35	2.4%
ヘーゼルナッツ	27	1.8%
その他	62	4.2%
木の実類合計	1484	100.0%

年齢別の症例数は、0歳が全体の23.5%を占め、1歳が12.8%、2歳が9.55%で、2歳までで45.8%を占め、6歳までで74.4%を占めています。

年齢群別の5%以上を占める原因食物は、0歳群では鶏卵、牛乳、小麦で95.6%を占めており順位に変化はありませんが、1・2歳群、3-6歳群、7-17歳群ではクルミが2位、1位、1位、1・2歳群、3-6歳群ではイクラが4位、3位となっております。

年齢別原因食物(粗集計)

年齢群	0歳	1・2歳	3-6歳	7-17歳	≥18歳
調査数	1,418	1,347	1,722	1,228	318
1	鶏卵 60.6%	鶏卵 60.6%	クルミ 28.3%	クルミ 17.2%	小麦 21.1%
2	牛乳 21.4%	クルミ 14.6%	落花生 12.0%	牛乳 13.6%	エビ 16.7%
3	小麦 13.6%	牛乳 12.9%	イクラ 9.4%	鶏卵 10.7%	大豆 8.2%
4		イクラ 8.8%	鶏卵 8.9%	落花生 9.9%	
5		落花生 5.7%	牛乳 8.6%	小麦 8.1%	
6		小麦 5.2%	カシューナッツ 8.4%	エビ 6.9%	
7				カシューナッツ 5.2%	
小計	95.6%	81.0%	75.7%	71.8%	45.9%

※本資料は消費者庁のホームページに掲載されている食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書のデータを編集したものです。元となるデータは次のURLをご参照ください。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/#research